

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 2 月 15 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200601		
法人名	サンキ・ウエルビィ株式会社		
事業所名	サンキ・ウエルビィ グループホーム江波		
所在地	広島市中区江波二本松1丁目10番3号 (電話) 082-208-5237		
自己評価作成日	平成29年12月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200601-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年1月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

サービス付高齢者住宅・小規模多機能センターを併設する多機能型住宅である特色を活かして、ウエルビィ江波全体が、安心して暮らせるコミュニティスペースとなっています。その中で暮らす人々と職員が共により良い関係を構築しながら、利用者のペースで過ごせる心地よい居場所を提供するにしています。「認知症であっても、不安なく穏やかに過ごせ、自分の居場所がある生活」を職員と一緒に日々積み重ねて行けるよう心がけています。地域の方々とも、『足湯コーナー』『季節行事』等を通じて交流を重ねながら、安心そして信頼して介護相談をして頂ける、地域住民に認められる事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

住宅や商業施設が密集した地域に立地し、高齢者の多機能型住宅施設として馴染みが持たれている。法人理念、事業所としての理念がしっかりと確立され、理念を共有して日々のケアを実践と研修や教育にも力を入れた取り組みがある。利用者に対する思いやりや気持ちを大事にし言葉がけにも配慮していく指導がある。利用者との関わりや毎日のモニタリングでその時の思いや希望を把握し、家族との協力のもとで介護計画を作成し利用者本位のケアが実践されている。排泄も自立支援を意識しており、看取りの思いも強くもちターミナルケアも実施している。行事の取り組みにも力を入れており家族会の回数を増やすなど利用者・家族の満足度に繋がっている。地元町内会の交流や災害の協定を結んでいるなど地域との協力関係も強くできている。空間もフロアテーブルや椅子の形態、ソファの配置など居心地良い暮らしができる配慮がなされている。

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	企業理念「福祉事業を通じて地域社会に貢献します」 施設理念「心地よい居場所を提供します」「笑顔あふれる瞬間を創造します」「温かく支えあえる仲間を増やします」そして6Sの推進「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ・作法」を継続して実践することで、更なる品質向上に挑戦し、地域社会に貢献できる事業所を目指している。	朝礼での理念唱和やユニット会議、センター会議の月2回の会議でも唱和し共有している。入社し企業理念を学ぶ教育体制も充実し実践がある。理念を通じ質の向上と地域に求められること、働きがいを作る目標がある。年一回法人内発表会があり今回は理念、6S推進の取組みの成果を発表を行う予定である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、秋祭り・南の風等、地域行事にスタッフ共々参加させて頂くことで、地域の一員としての交流を心がけている。納涼祭、お茶会、敬老会、忘年会等、施設の行事にも、地域の方の参加を頂いている。	町内会に加入し自治会長や体協、婦人会、老人クラブなど地域の方との交流や祭りや地域行事参加も行い、南の風の祭りでは利用者も発表があり、今年も協力するなど地域にとけ込んだ活動がある。事業所納涼祭やお茶会などにも声を掛け参加していただいている。重度化での外出の難しさも今後の課題である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所は、地域に「認知症」が特別なものではなく、地域の方の理解、支援が必要なことを、運営推進会議等を通じて地域に発信している。高齢者のいきいき活動としての介護予防活動である「いきいき百歳体操」を毎週月曜日に、開催している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、運営状況・取組み状況を報告させて頂いている。地域包括・行政にも参加を頂きながら、ご意見を伺い、サービスの質向上に活かしている。	会議にゲストを招きテーマや趣向を凝らした内容の会議の取り組みがある。近所の方から認知症の勉強がしたいと要望ありサポーター研修を行ったり地域住民、民生委員からは祭りなどの行事案内や地域の出来事など話があり、地域包括支援センターからは認知症カフェへの紹介など活発な意見交換がされている。	会議での家族の参加において、参加者が決まってきた傾向があり、参加の声掛けや案内の工夫など行うことで、より多くの家族に参加いただき意見交換が持てることで更なるサービスの向上につながることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険課には、空き情報を報告、運営上の問題点、疑問点があれば随時、相談・助言を頂いている。行政からの研修にも、積極的に参加し、サービス向上に活かしている。	運営推進会議を通して意見交換も行っており顔の見える関係性が構築できている。必要に応じて連絡や確認ができるようにしている。行政主催の研修にも積極的な参加も行っている。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で『身体拘束廃止の基本方針』を理念としている。年1回は必ず、現任研修にて『身体拘束限りなく0』を周知し、身体拘束の弊害と悪循環について、理解・認識している。生命・身体を保護する為、緊急やむを得ない場合の対応も「切迫性」「非代替性」「一時性」要件を満たし、且それらの要件の確認等の手続きを極めて慎重に実施している。玄関は、施錠をしない介護を実践している。	法人として「身体拘束廃止の基本方針」があり方針に基づきケース検討を行っている。年1度は研修を行い身体拘束の弊害と悪循環について理解・認識に取り組んでいる。身体拘束が必要な方にも家族にしっかりと説明を行い同意を得て対処し、ユニット会議で振り返りを重ね実践をしている。	身体拘束廃止において事業所自体でも更に学んでいきたいと意欲が強くあり、今後更なる研修やスタッフの話し合いの場が設けられ、現在活用している書式などの整備もより深められることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回は必ず、現任研修にて「虐待防止」を職員に徹底周知している。言葉の暴力等、みすごされがちな対応にも注意し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実際に制度を利用されている方も居られ、個々の必要性を把握し、権利擁護に関する制度を理解し、支援するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時には、利用者家族の不安に対して、時間をかけて丁寧な説明を行い、納得いただいた上で、署名・捺印いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年6回の家族と共に行う行事の際、家族会を開催し、施設へのご意見・要望をお聞きしている。ご意見は真摯に受け止め改善している。定期的にカンファレンスを行う際も、家族の思いを確認させて頂いている。	年間6回行事を組んでおりそれに合わせ家族会を開催し家族にも意見を伺う機会としてうまく活用している。家族会の回数も昨年より増やしている。過去にもお便りの報告がよく分からないと意見があり、日々行っていることが伝わりやすいように書式を改善したことがある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のセンター会議・各ユニット会議で意見交換し、利用者の満足度向上を含め、職員のやりがいのある職場作りとしての職員の意見を、運営に反映させるようにしている。	毎月ユニット、センター会議で利用者への取り組みや改善の意見交換が活発に行われている。スタッフは年2回管理者と面談する機会を設け其々のチャレンジ目標が達成されているか評価と振り返りが行われ個人の資質の向上へ繋げている。その他日常的に面談も多く設け勤務や個人の悩みなど聞きながら行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者としては、職員個々の健康管理も含め、職員の勤務状況を把握、職員間の人間関係によるストレスの解消や、職員各自の仕事に対する個々の役割り等の環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者は、職員一人ひとりが持っている短所・長所を含め、ケアの力量を把握しながら、個々のケアの技術向上を目指して日々の仕事を通じて教育している。介護福祉士・介護支援専門員の資格取得の為に受験対策支援、実践者研修の受講も経費支援も含め積極的に奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣のグループホーム間で、他者点検として、帳票類の記入や管理、整備について相互間で確認点検を行っている。今後は他事業所と職員交流をしていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に何度かご本人と面接する機会、時間を作るように努めている。本人が不安に思っていること、困って居られることに耳を傾け、本人が、安心、信頼して入所いただけるよう、時間をかけて関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居のご相談を頂いてから、入居までに、何度か施設を見学して頂いたり、相談要望を聞く時間を契約以前に作りご家族の不安・要望に出来るだけ、お答えをし、安心・信頼して入居いただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	「本人の不安に対する支援」「家族の安心に繋がる支援」として、現時点でグループホームの生活の中で何が必要か見極め、適切な対応が出来るか検討、ご家族に説明、理解を頂きながら、相談・検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活の場である此処での暮らしの中で、職員そして他の利用者と一緒に自然に、より良い人間関係を築いていけるよう日々を積み重ねています。頼り、頼られ、慕われあう関係づくりを理想としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居以前よりご本人と家族がより良い家族関係を作れることが目標。家族と本人、それぞれの思いを理解し、お互いの絆が深まる支援を目指している。そして、家族に代わって、ご本人がより充実した日々で過ごせるような支援を理想としている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの方の面会が途切れないよう、又会いに来たいと思って頂けるよう配慮している。面会時には職員も少し同席し昔話を一緒に聞かせて頂いたり、近況報告をさせて頂いている。面会時には近所の散歩等、一緒に外出されることを積極的にお勧めしている。	家族や親戚の面会も多数あり、地域でのお祭りにも参加し地域の方との交流があり毎週1回移動販売車ヒロデンジャーが来るときは買い物を通じて地域の人々とのふれあいを持っている。利用者の生活歴を踏まえ、喫茶や行きつけの散髪屋に通ったりと個人の思いを汲んだ取り組みを実践している。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人ひとりの個性・性格を把握し、より良い人間関係を築いていけるよう、スタッフが潤滑油の役目を果たせるように努めている。毎日時間を決めて、レクレーションの時間を持つことで、一緒に笑い合える楽しいひと時を過ごすことが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了しても、その後どうされているか気に掛けながら、連絡・相談に応じている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いに寄り添えるよう努めている。ご本人の意思表示が困難な場合には、私だったらどうして欲しいかを考え、その内容をスタッフ間で確認しながら、より本人らしく生活できるよう支援している。	朝の会にて利用者一人ひとりに楽しくコミュニケーションを取りながら個人の思いやその日の希望を聞いたりしている。ユニット会議にも利用者に参加してもらい意向を聞いている。日々のケア時の反応や気付きも細かく支援経過記録に記載しスタッフ全員で共有することで利用者個人の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	一人ひとりとの日々の会話の中や、ご家族に色々聞かせ頂く生活歴や馴染みの暮らし方を把握するように努めている。入所される以前に関わりのある事業所からも情報を頂くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日常の関わり方の中で、有する能力そして、どんな時に不安になり、どんな時に喜びを感じるか、日々観察、発見、把握、記録し、情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>計画作成が作成した介護計画に基づき、サービスを行っている。より良いケアを提供する為にも、日々実施モニタリングを記入しながら、職員同士意見やケアの方法を日々の引継ぎ時に伝えるようにしている。家族とのカンファレンスのご意見や職員の意見を反映しながら、本人本位の介護計画を作成している。</p>	<p>毎日の記録でモニタリングを実施し、個人のケアプランの進捗実施状況も会議で確認するようにしている。家族にも面会時や日々の関わり、必要に応じて連絡をとるなど意向の確認に努めている。利用者の意向を大事にしながら家族、スタッフが協力して介護計画が作られている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の日々の暮らし方やサービス内容、体調の変化等個別にサービス提供記録に記録している。日々変化のあった事は支援経過記録に記入、職員間で情報の共有を行い、サービスの実践や介護計画の見直しに活かしている。職員は出社したらず、記録を確認、情報の共有、サービス対応の確認・実践と反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ウエルビ江波の特長を活かし、グループホーム単独ではなく館内をコミュニティと捉え、毎月第二水曜日の「あいるカフェ」敬老会・春秋のお茶会・納涼祭・忘年会等企画し交流する中で、他セグメントの意見を取り入れながら、既存のサービスに捉われないように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事への参加に加え、近所への散歩、江波山へのドライブ・散策、近隣公園へのピクニックと近所にお出かけすることで地域性を感じていただく。江波中学校生徒の体験学習では、子供たちとゲームをしたり、色々な話をする機会を頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医は、本人、家族の希望を大切に決めている。当施設のかかりつけ医は、日祝日以外ほぼ毎日のように往診があり、安心して適切な医療を受けることが出来ている。他医療機関受診が必要な方は、看護師が付き添う等、適切な対応を心がけている。歯科・眼科・皮膚科・整形外科等夫々の症状に応じ適切に往診・受診している。</p>	<p>入所時に説明し、これまでの主治医に往診があるか家族の協力など確認し利用者・家族の希望に沿った支援を行っている。提携の医師は複数診療科協力の頻繁な往診体制がとられており、受診には看護師が付き添うなど状況に応じ安心して医療が受けられる支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は、些細なことでもご利用者の変化に気付き、その都度看護師に報告相談し、看護師から主治医に相談、処置という体制を取っている。医師への連絡・相談は基本看護師が専門的な立場で行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院された際は、安心して入院治療が行えるよう看護師と病院とで連絡を取り合い、情報交換を行っている。退院時は病院の相談員さんと連携を取り、カンファレンスを行い、退院後も安心して生活が出来るよう退院後の対応方法を確認し、対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針」として説明し同意を頂いている。その後も、家族、医師・看護師・介護職と連携を取りながら、ご本人にとって、より良い最期を迎えられるよう支援している。	契約時、重度化した場合の対応に関わる指針を説明し同意を得ており「最後まで看させていただきます」という事業所としての思いをもちターミナルケアを行い、家族や医師・看護師、介護職員と協力し看取りの介護計画書を作成し良い最期を迎えられる支援を実施。今年1件、昨年4件の看とりの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡表を緊急連絡先・既往症・服薬状況を記入、作成し緊急時に備えている。年に1回以上、「緊急時の対応」「応急手当」を現任研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署・地域住民参加でウエルビィ全館の避難訓練を実施。防災訓練もウエルビィ江波が避難場所となり『災害時相互応援協定』を江波町内会と締結している。	避難時に利用者への行動やシーツを使う、階段にて避難、名札をひっくり返すなど具体的な取り組みの実践があり、年2回の訓練では消防署の立会いや、隣の教会や婦人会など地域との協力も得て行っている。河川の氾濫など地域での災害種別を想定して取り組み、町内会との協定も結び協力関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「接遇」「人権の尊重およびプライバシーの保護」年1回以上現任研修実施。「認知症」という概念を捨て、相手を思いやる対応・言葉かけを徹底指導している。	毎年、全スタッフが研修受講やレポート提出を継続して行っている。管理者も相手を思いやれる気持ちや言葉かけが大事な思いを強くもち温かい言葉を使ってほしいなどスタッフに指導している。人格を知り個性を理解することに努めて日々のケアを実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりを尊重して対応する。こちらの都合でのサービスになりがちな対応を、その都度確認、押し付けのサービスにならないよう気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者への対応が作業化しないよう、こちらでの都合の対応にならないように心がけている。相手の気持ち、今、何を望まれているか、その思いに添えないか、全体の流れも見ながら、適切な対応が出来るよう、職員間の声掛け、チームワークを取りながらやるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	随時、出張理美容訪問あり。家族に了解を得て、1～2ヶ月に1度、ヘアカラー・カットをしている。たまのお出かけには、手持ちの洋服でのおしゃれ、簡単なお化粧でおしゃれを楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	基本食事は厨房から運ばれてくる。副食の魚か肉かをご自分で選んで頂くことが出来る。月に一度の割り合いで、料理レク・おやつレクを楽しむように企画している。お弁当を作って外で食べたり、お好み焼きの出前を食べたりして楽しんでいる。食後は食器拭きを手伝って頂いている。	施設建物の厨房にて三食とも調理されるが、利用者自身に食事のメインが選べ好みの選択ができるようにしている。日々のケアや朝の会などで季節のものや利用者のその時の希望や嗜好を聞いて献立に活かしている。月1度料理・おやつレクを企画しホットケーキやぜんざいなど一緒に作り食べて楽しむ機会がある。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養に関しては、厨房の栄養士が管理している。水分量には、特に気を使っている。1日1500CC目標。食事が取れない方は、家族と相談してお好きなものを、少しでも食べて頂く工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔衛生（歯磨き）は徹底している。定期的に歯科訪問があり、口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターン・習慣を考慮し、時間おきの声掛け・誘導・確認をすることで、清潔を保ちながら、自立できるよう支援している。	排泄チェック表を活用し、利用者の様子を随時みながら声掛けや誘導を行っている。衣服ズボンの上げ下げや流すことができる方は見守ってできるように支援したりと排泄の動作もできるだけ自身が行えるように支援し、残存能力を活用した自立した排泄ケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に応じた排便管理・対策を取っている。オリーブオイル・ヨーグルト・朝の冷たい飲み物等の工夫に加え、下肢の運動、散歩等の工夫をしている。その上で、排便の状況を医師に相談の上、服薬の調整をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本は週2～3回の入浴。その方の体調にあわせ、浴槽・シャワー・清拭・足浴・シャンプーのみ等、入浴を無理強いないようにしている。皮膚の状態によっては、毎日入浴されている方もある。	週2～3回を基本に入浴していただいている。浴槽にゆっくり浸かって入浴を楽しんでもらいたいという思いで取り組み、入りたがらない方へは無理強いることなく様子をみながら勧め、身体的に浴槽に入ることが難しい方にはスタッフ2名での対応もあり、利用者の方々への入浴支援を実践している。	

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活習慣や体調に合わせて、随時休息をとって頂いている。就寝時間も、その方に合わせて、対応。気持ちよく寝て頂く為の、環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療機関からの処方によって服薬管理を看護師が行っている。ご利用者の体調に変化があれば、すぐに看護師から医師に報告相談し、支持を頂き対応している。服薬に変更があれば『サービス記録簿の看護師からの伝達事項』に赤字で記入、介護職は毎回勤務前に記録を確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎日のレクリエーションの時間を活用し、脳トレや言葉遊びカルタ・トランプ・カラオケ等、みんなで一緒に笑い合える時間を大切にしている。時には、昔話に花が咲き、笑い合えたり、昔を思い出して涙ぐんだり。そして皆さんの大好きな散歩、外出、楽しく歌うこと、そんな色々な気分転換をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	車に乗って江波山に行ったり、観音マリーナに行ったりアイスクリームを食べたり、海を眺めたり、広島市内をドライブしたりして楽しんで頂いている。1月は護国神社へ初詣、6月はマリホ水族館に行つて、お弁当を食べたりして楽しんだ。しかし、車椅子介助の必要な方が増え、遠くへの外出は今後、家族の協力なしには難しくなっている。家族が面会に来られた際は、近くでよいので、一緒に散歩に言っ頂くようお願いしている。寒い時期は外出の機会が減っている状況。	近所の公園への散歩や近くの高架橋に上り上から景色をみたりと日常的な散策や外出行事も多く企画し楽しみに繋がる取り組みがある。車で行く際に住んでいた家や馴染みの環境がみれる様にしたり、面会に来た家族などにも散歩など一緒に外出していただけるように勧め交流を深いものになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭トラブル防止のために、基本は個人の現金所持はお断りしている。どうしてもお金を持っておきたい方は、家族の了解の上で所持しておられる。基本は、家族からお金を預かり、管理者の管理の下に、希望の買い物で代行したり、理美容の支払い等をしている。現金出納帳を記入、毎月家族に収支報告をしている。		

自己評価	外部評価	項目()	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご本人が家族と電話をしたい時は、すぐに取り次ぎお話して頂いている。ご家族から、プレゼント等が届いたら、ご本人から電話をして頂いたり、お礼状をご本人が書かれるのをお手伝いする等の支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>出来るだけ自室に閉じこもられないよう、フローアが心地よい空間になるよう工夫している。ソファに座ってみんなでテレビを見ながら談笑したり、季節の飾りで、季節感を感じていただけるよう飾り付けに気を配っている。特に、臭いには配慮して、整理・整頓・清潔の状態が維持できるよう心がけている。</p>	<p>ソファを3～4脚置き座りたいところに座り落ち着いて過ごせるようにしている。アイランドキッチンでスタッフが自然に目が配れる配置や六角テーブルにて利用者同士が近くふれあいが多くみられる。バラなどの多彩な花の飾りがあり、利用者の作った作品をふと目に留まるところへ掲示したりと工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>共有空間の中で、自分の居場所があることはとても大切だと思っている。ソファの置き場所を工夫したり、話し相手が側にいれるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人の居室は、使い慣れたものや大切にしているものを置いたり、家族の写真を飾ったり、その方が落ち着く居場所づくりにしている。すっきり暮らせるように、極力荷物の少ない方も居られる。家族と相談しながら、居心地の良い、整理整頓された空間になるように配慮している。</p>	<p>ベッドやクローゼットは備え付けであり、その他のものでは馴染みのタンスや作りものの掲示、写真が飾ってあったりと利用者の思いに添った居室空間になっている。家族にも話を聞きながら個人に配慮した居心地良い部屋づくりがされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>特に転倒防止には気をつけ、安全に配慮した環境を常に心がけている。特に、トイレの場所は、入りやすいよう、判りやすいよう、使いやすいように気をつけている。</p>		

V アウトカム項目() ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム江波

作成日 平成30年3月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束において、職員間で研修・議論を積み重ねる。現在活用している記録の書式を身体拘束解除に繋がるように、整備する。	身体の抑制を限りなくゼロに近づける。	身体拘束の弊害を理解・認識し、職員間でしっかり議論し、全員で問題意識を持って、身体の抑制を限りなくゼロに近づける。	平成30年 2月～
2	6	身体拘束において、職員間で研修・議論を積み重ねる。現在活用している記録の書式を身体拘束解除に繋がるように、整備する。	身体の抑制を限りなくゼロに近づける。	身体拘束の記録においてはまず、既存の書式にしっかり記入する。現在使用している書式は本社担当者と相談して見直していく。	平成30年 4月～
3	4	家族会に参加される家族が決まっている傾向がある。	家族が参加しやすい行事内容の工夫をして、多くの意見を頂けるようにする。	お茶会(春・秋)お花見、納涼祭、クリスマス会等の行事内容の工夫。都合のつかないご家族に対しては、アンケート等でご意見を頂くを工夫をする。	平成30年度 内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。